

## 出谷川(山形県)で獲れた大形のイワナ

木村 清朗

(1970年3月20日受領)

### On the Large Specimens of the Non-Migratory Char Obtained from Deya River in Yamagata Prefecture

Seiro Kimura

The author observed two large specimens of the non-migratory char, *Salvelinus leucomaenoides* (Pallas), exhibited in Oisawa Natural Museum, Nishikawa-cho, Yamagata Prefecture. These fishes are mature males measuring 55 and 58 cm in total length and were captured in Deya River, an upper reach of Aka River which flows into the Japan Sea, in October, 1959 and 1966. These specimens seem to be the largest of the fluvial char, which have been, so far, considered to reach a length of 40 cm at the largest.

(Fisheries Laboratory, Faculty of Agriculture, Kyushu University, Hakozaki, Fukuoka City, Japan)

筆者は昭和44年10月、山形県西村郡西川町の大井沢自然博物館で、大きなイワナの剥製標本2点を見る機会を得た。標本はいずれも日本海に注ぐ赤川の上流、出谷川で獲られたもので、筆者の実測では全長55cm、58cmであった。わが国の河川性サケマス類は、降海性

あるいは湖沼にすむものに較べて、一般に大きくならない。本州の河川のイワナも約40cmまでとされており(中村, 1963), これらのような大形のものは渓流では稀と思われる所以、その形態と特徴について報告する。

両標本を採集した志田忠儀氏(大井沢在住)によると、



Fig. 1. Two large male specimens of non-migratory char, *Salvelinus leucomaenoides* (Pallas) collected in the Deya River, Yamagata Prefecture. A 55 cm, and B 58 cm in total length.

Table 1. Measurements and counts of two male stuffed specimens of non-migratory char, *Salvelinus leucomaenoides* (Pallas).

Total length	55.0 cm	58.0 cm
Standard length	49.0	52.0
Body depth	8.3	8.0
Head length	10.0	11.5
Length of upper jaw	6.5	7.0
Snout length	3.5	4.0
Eye diameter	?	?
Depth of caudal peduncle	4.2	3.6
Scales one row above lateral line	224	218
Pored scales on lateral line	121	120
Dorsal fin rays	12	11
Anal fin rays	9	8+
Body weight	1080 g	—
Date of capture	Oct. 18, 1959	Oct., 1966
Locality	Heishichi Creek of Deya River (Yamagata Pref.)	Junction of Deya River and Iwaya Creek ( " )
Collector	Mr. Tadanori Shida	"

全長 55 cm のものは昭和 34 年 10 月 18 日、出谷川に注ぐ平七沢において投網で捕獲されたといふ。また全長 58 cm のものは昭和 41 年 10 月末、出谷川と岩屋沢合流点の対岸の河原に増水時に出来た水溜りで、全長 45 cm 程のイワナ約 10 尾とともに採捕されたといわれる。この出谷川は深淵と早瀬が連続する水量豊富な深い渓谷で、大形のイワナが多いとされ、筆者もここでイワナを採集したことがある。

両標本はいずれも成熟した雄で、これらの写真と測定結果を図と表に示した。

これらの標本は普通のイワナに較べて、体は細長く体高も低い。二次性徴がよく発達し、下顎はやや上方に彎曲する。その先端は鉤状に曲って、いわゆる “kype” を形成し、その部分は吻端前面の小欠刻にはまり込む。尾鰭は浅く叉入する。体の地色は暗い黄褐色で頭部は著しく黒い。体側と背面に径 3-8 mm の白色円形斑が散在するが、パーマーク ‘parr marks’ は認められない。

これらは体側に白点があること、縦列鱗数が 200 以上であることからイワナ属 (*Salvelinus*) に属し、このうちの降海性を持つアメマス *S. leucomaenoides* (Pallas) か河川性のイワナかと思われる。しかし、出谷川には平七沢合流点の 1 km 下流に滝があって、魚類の通過は困難で、

さらに最初の標本が獲られる 3 年前（昭和 31 年）に、その下流に八久和ダムが完成している。したがって、アメマスが出谷川に入る可能性は全くなく、これらの標本は降海性を持たないイワナと推定される。

大島 (1961)、中村 (1963) によれば、この地方のイワナは *S. pluvius* (Hilgendorf) となるが、筆者はイワナ類の生活史の研究を通じて本州のイワナは、今西 (1969) も述べているように *S. leucomaenoides* (Pallas) の河川型と考えている。故に今回の 2 標本にもこの種名を仮に適用した。

原稿を校閲された九州大学農学部の塚原博教授、標本の撮影と計測を認めて頂いた渡辺邦太郎館長と小川一博士並びに採集者の志田忠儀氏に深謝する。

#### 引 用 文 献

- 今西錦司. 1969. 日本山岳研究. 中央公論社, 東京. 1-408.  
 中村守純. 1963. 原色淡水魚類検索図鑑. 北隆館, 東京. 1-258.  
 大島正満. 1961. 日本産イワナに関する研究. 鳥獣集報, 18(1): 3-70.

(福岡市箱崎 九州大学農学部水産学科)